平成 17 年（2005 年）3 月 25 日

廃棄物学会ニュース
The Japan Society of Waste Management Experts
No.85
廃棄物学会

田中信壽会長の逝去を悼む

廃棄物学会前会長・京都大学環境保全センター　高月　紘

田中信壽先生が逝去されたことは、廃棄物学会にとっても小生にとっても痛恨の極みである。特に、廃棄物学会にとっては現職の会長を突然失ったことになるので、まさに衝撃的痛手である。廃棄物学会が今日このような立派な学会に成長したのも、元をただせば、田中信壽先生らの世代の方々が、40 年近く地道に築きあげてきた廃棄物学と廃棄物学会をつくろうという情熱があったからこそである。

思い起こせば今から 20 年近く前、田中信壽先生と田中勝先生と小生が廃棄物学会を設立しようと相談をはじめた訳であるが、色々と難問があった。学会を設立するにはその当時、既に存在していた廃棄物関連の研究会である廃棄物処理対策全国協議会や全国都市清掃会議との関係をどうするか？どのような形の学会組織にするのか？何しろ当時、まだ若輩の我々が名立たる諸先輩方々の意向をくみながら学会を設立するにはそれなりの苦労があったが、ともあれ、田中信壽先生が年会を、田中勝先生が事務局を、小生が編集を各々担当することで学会の骨格をつくり上げたのである。その意味で、田中信壽先生は廃棄物学会の実質的な礎を築いた方であり、その先生がまさに今、学会長として学会発展のために情熱を傾けておられただけにその急逝は、ご本人にとっては志半ばでさぞかし無念であったろうし、学会にとっても惜しんでも惜しみきれないものがあるのである。

さて、小生がはじめて田中信壽先生を知り、親しくなったのは、今から 30 年以上前に廃棄物学会の前身とも言える廃棄物処理対策全国協議会の研究発表会を通じてであった。京都大学工学部化学工学科を出て京都府衛生研究所に就職され、廃棄物の研究をはじめられたころであったと思われるが、先生の研究発表要旨集を見るといつも小さく縮小された図表がページいっぱいにところ狭しと並べられているのが強烈に印象に残っている。もし、ページ数に制限がなければいくらでも研究データを発表するぞ、との廃棄物研究にかける情熱が伝わってくるものであり、その研究態度は今も変わらず持ち続けられていたのである。

当時の廃棄物処理対策全国協議会は、実質的には京都大学の衛生工学教室、大阪市や京都府の衛生研究所の研究者が組織運営に当たっており、その会長が小生の恩師である岩井重久先生であった。そんな縁もあってか実は、田中信壽先生は岩井重久先生の秘書であった美和子夫人と結婚されたのである。そんな訳で小生にとっては奥様である美和子様もよく知っていることもあり、田中信壽先生はより親しい存在であり、研究上はもとより当学会運営等についても心おきなく相談できる先生であった。その田中信壽先生を今失ったことは、小生個人的には世の無情を恨みたくなる心情である。

田中信壽先生の研究、教育上の業績は今さら述べる必要もないほど偉大なるものであるが、とりわけ、廃棄物の埋立処理分野での理論的解析に優れた業績を残されている。さらに、焼却技術やリサイクルの評価、処理・処分のシステム解析などにも数々の研究を発表され、まさに清掃工学の第一人者としての活躍をされていた。また、多数の優秀な技術者を育て、世に送り出された優れた教育者としての田中信壽先生の業績も忘れてはならない。先生は長らく腎臓を患い、人工透析を続けておられたが、その闘病生活の苦しさを周囲の人にはおくびにも見せず、教育、研究に邁進しておられたのは驚異的な精神力の持ち主でもあったと思う。

学会活動においてもしかり、常に誠心誠意の活動ぶりであり、手抜きをされないフル回転の生活が、結果的には命を縮められたのかもしれない。しかし、それが田中信壽先生の生き方であったと思い直すとき、残された我々が先生の遺志を少しでも継いで廃棄物学を発展させることが、せめてもの先生への恩返しではなかろうか。

最後になったが、田中信壽先生のご家族の方々の悲しみはいくばかりかと推察するとともに、切にご冥福を祈りたい。

田中信壽先生略歴

1944 年 1 月 19 日生
1971 年 3 月　京都大学大学院博士課程　修了
1971 年 4 月　京都府衛生公害研究所　勤務
1974 年 3 月　京都大学工学博士
1990 年 4 月　北海道大学工学部　教授

<廃棄物学会での略歴>

1990 年 3 月　第 1 期年会委員会幹事
1992 年 5 月　第 2 期理事、年会委員会幹事
1994 年 5 月　第 3 期理事、年会委員会委員長
1996 年 5 月　第 4 期理事、年会委員会委員長
1998 年 5 月　第 5 期理事、研究委員会委員長
2000 年 5 月　第 6 期副会長、研究委員会委員長
2002 年 5 月　第 7 期副会長
2004 年 5 月　第 8 期会長

廃棄物学会１年の歩み

2004年（平成16年）の活動状況

2004 年は、鳥インフルエンザの発生、台風や集中豪雨による度重なる被害、新潟中越地震の発生、死者・行方不明者計 30 万人以上という大災害をもたらしたスマトラ沖地震とインド洋津波など、様々な出来事があった。一方、６月に米国で開催されたＧ８サミットにて、小泉首相より提案された循環型社会の構築を目指す「３Ｒイニシアティブ」が、合意を経て、今後、国際的な取組みが進められることや、温室効果ガスの削減を義務付ける京都議定書が、11 月のロシアの批准を経て、本年 2 月に発効されることが決まった明るい話題もあった。

廃棄物分野でも、廃棄物焼却施設から排出されるダイオキシン類の総量が「ダイオキシン対策推進基本方針」で定められた削減目標（平成 9 年度比 92%）を達成したという明るい話題が 8 月に環境省から発表された。

廃棄物学会の活動では、5 月に総会が川崎で開催され、第 8 期会長に北海道大学の田中信壽教授が就任し、新体制が発足した。同時併催の研究シンポジウムは、今回より研究討論会と名称を変更して、5 つのテーマが同一会場で順次行われた。11 月には、15 回目の研究発表会が高松で開催された。新春に小泉首相が豊島不法投棄現場の視察を行ったことが話題になったが、この研究発表会でも、豊島問題に関する様々な企画や、チャーター船による豊島・直島への 3 回の施設見学会が実施され、共に多数の参加者があった。

また、支部による行事が前年の 13 回から 20 回に増えるなど、支部を通じての地域活動も活発に進められた。当学会における 2004 年の活動状況は下表に示すとおりで、いずれも会員各位の協力を得て円滑に実施された。本年も、学会活動の更なる活性化に向けて、会員各位のご協力をお願い申し上げる。

（広報委員会　松村治夫、立尾浩一　記）

▲平成 16 年度総会の様子

▲第 15 回研究発表会の様子

平　成　16　年　の　活　動　状　況

月　日	行　事	開催場所	テーマ・内容
平成16年 1月27日	北海道支部 第5回セミナー	札幌市	「土壌・地下水汚染対策の現状と課題 －北海道の環境保全を目指して－」
1月31日	中国・四国支部 セミナー	岡山市	「木質系廃棄物の循環利用を考える －再生エネルギーとしての有効利用を考える－」
2月24日	東海・北陸支部 見学会	東海市	「廃プラリサイクル工場見学会」
3月2日	平成15年度特別セミナー 企画委員会	東京都港区	「廃棄物･バイオマス分野における温室効果ガス削減関連事業の展望」
3月3日	中国・四国支部 セミナー	岡山市	「最終処分場の安全性の評価法」
3月13日	東海・北陸支部 市民フォーラム	名古屋市	「いま、改めてリサイクルを問い直す」
3月19日	関西支部 セミナー	京都市	「第1回廃棄物に関する法制度セミナー」
4月28日	東北支部 シンポジウム	仙台市	「有機性廃棄物のリサイクルを考える」

月　日	行　事	開催場所	テーマ・内容
5月13日 ～14日	韓国廃棄物学会2004年度 春季学術発表会 （国際委員会）	韓国安山市	韓日特別シンポジウム、第8回韓日共同国際セッション、研究発表会
5月19日	北海道支部 国際セミナー	札幌市	講演会「水・廃棄物代謝と地下水汚染」、ポスター研究発表会
5月27日	平成16年度総会 平成15年度廃棄物学会賞表彰式	川崎市	平成15年度事業報告・収支決算・監査報告 平成16年度事業計画・収支予算 第8期役員選任
5月27日 ～28日	平成16年度研究討論会 （年会委員会、研究委員会）	川崎市	（研究委員会企画） 「廃棄物の減量化」 「安全安心・持続可能な埋立処分を創る」 （年会委員会企画） 「循環型社会像を考える」 「電気製品内有害物質の管理と適正リサイクル」 （会員企画） 「ごみ処理事業経営の日独比較～効率性改善と費用負担のあり方を中心に～」
6月3日	平成16年度技術セミナー （企画委員会）	川崎市	「プラスチック類リサイクル技術の現状」
6月5日	九州支部 総会、講演会	福岡市	平成15年度事業報告・収支報告 平成16年度事業計画・収支予算案 講演「ストック型社会への転換の必要性と考え方」
6月12日	関西支部 市民と学生のセミナー	大阪市	「ごみと教育」
7月2日	中国・四国支部 総会、講演会、シンポジウム	広島市	平成15年度事業報告・決算報告 平成16年度事業計画・予算計画 講演会・シンポジウム「ごみ減量・リサイクルをどう進めるか～容器包装リサイクルを中心として」
7月23日	中国・四国支部 講演会	松山市	廃棄物学会・大気環境学会・水環境学会三中国四国支部合同講演会 「環境質の汚染に係る調査研究」
8月3日	東北支部 総会、講演会	仙台市	平成15年度事業報告・収支報告 平成16年度事業計画・収支予算案 講演「化学物質規制に関する海外（特に欧州）動向と日本企業へのインパクト」「多様化する環境政策手法と持続可能な企業経営」
8月21日	九州支部 市民フォーラム	福岡市	「ごみについて徹底討論しよう！！」 －持続可能な社会を将来世代につなぐために－
9月17日	東海・北陸支部 見学会	小牧市	「エコハウス・小牧」
9月28日	中国・四国支部 シンポジウム	岡山市	「コンクリートの環境負荷とその低減に向けて」
10月8日	関西支部 総会、技術セミナー	大阪市	「超臨界・亜臨界技術による廃棄物の処理と資源化」
10月15日	北海道支部 見学会	滝川市 空知市	バイオガスプラント見学会
11月1日 ～2日	東海・北陸支部 基礎講習会	名古屋市	「廃棄物処理技術」
11月6日	北海道支部 シンポジウム	札幌市	「北海道が目指す循環型社会とは～廃棄物系バイオマスの有効利用を考える～」
11月6日	九州支部 視察研修・研究集会	福岡市	福岡市のごみ焼却処理技術検証
11月17日 ～19日	第15回研究発表会 （年会委員会）	高松市	研究発表(45セッション)、特別シンポジウム、年会委員会企画シンポジウム､国際シンポジウム、小集会(8部会)、優秀ポスター賞表彰、施設見学会
11月25日	平成16年度シンポジウム （企画委員会）	千葉市	「廃棄物マネジメントにおける戦略的政策形成・計画策定」

■□■□　企画委員会、東北支部　■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■

平成16年度 市民と学生のためのセミナー開催報告　　*平成17年2月22日*

「容器包装リサイクル法は地域活性化の糧となるか？」

「容器包装リサイクル法は地域活性化の糧となるか？」と題したセミナーを、企画委員会、東北支部、プラスチック化学リサイクル研究会の主催で、市民など 90 名の参加を得て、平成 17 年 2 月 22 日に仙台メディアテークにて開催した。

セミナーでは、司会を中山享氏（東北大学）、コーディネーターを柴山光由氏（仙台放送）が務め、パネルディスカッション形式で行われた。

はじめに、長谷川信夫氏（廃棄物学会理事、東北学院大学）による挨拶の後、コメンテーターの奥脇昭嗣氏（東北大学名誉教授）より、回収されたプラスチックがどのように処理されているか、その仕組みと手法についての説明があった。

続いて、5 人のパネリストから容器包装リサイクル法の現状、果たしている役割と問題点の整理、地方･地域の活性化への貢献等について数分程度の講演をしていただいた。まず、自治体の立場から広島紀以子氏（仙台市）より仙台市の取り組みと回収や保管等のコスト面について、続いて事業者の立場から塩谷操氏（札幌プラスチックリサイクル㈱）より油化によるプラスチックの再生事業の概要と容器包装リサイクル法の効果と課題についての話があった。また、中井八千代氏（容器包装リサイクル法の改正を求める全国ネットワーク事務局）からは、リデュース、リユースの優先、受益者負担への転換等の法見直しへの提言があり、藤井康弘氏（環境省）からは、中央環境審議会が行った容器包装リサイクル制度の関係者へのヒアリングで提示された意見の紹介、吉岡敏明氏（東北大学）からは、再生事業の現状と地元での事業化の可能性等について提言していただいた。

その後、容器包装リサイクル法の見直しについて、特に、拡大生産者責任と排出抑制、容器包装プラスチックの地元でできるシステム作りについてディスカッションを行った。会場からも貴重な意見が出され、活発な議論が展開された。

最後に、奥脇氏から議論のまとめがあり、溝口忠昭東北支部長（東北大学）の閉会のあいさつをもって、セミナーは盛会裡に終了した。

（企画委員会　臼井直人　記）

■□■□　企画委員会　■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■

平成16年度 特別セミナー開催報告　　*平成17年3月10日*

「廃棄物資源化事業の最前線の動向とその先にある展望」

表題の特別セミナーが、平成 17 年 3 月 10 日、虎ノ門パストラルで 75 名の参加を得て、開催された。開会にあたっては藤本副会長の挨拶があり、2 部構成でセミナーは実施された。

まず、第 1 部として、青山俊介氏（企画委員長）が「廃棄物資源化事業の最前線の鳥瞰」と題した基調報告を行った。また、「廃棄物資源化拠点プロジェクトの最前線報告」として、エコタウン構想の実践事例が 2 例報告された。能見正氏（埼玉県）からは「彩の国資源循環工場」プロジェクトとして、一般廃棄物と産業廃棄物の同一施設処理の政策についての報告があり、今永博氏（北九州市）からは「北九州エコタウン事業」プロジェクトとして、エコタウンの総合的な取り組みで「ゼロエミッション」を目指していることが報告された。

第 2 部としては、廃棄物資源化の最前線で挑戦している企業の事業報告とパネルディスカッションがあった。事業報告は、堤恵美子氏（㈱タケエイ）が取り上げた「建設混合廃棄物素材化」、茂木俊男氏（バイオエナジー㈱）が報告した「バイオエナジーの事業展開と課題」、加藤聡氏（クリスタルクレイ㈱）による「ガラス再資源化事業」、和田理氏（㈱エコウッド）による「廃プラ・木材製建築資材化事業」、田村誠一氏（㈱都市環境エンジニアリング）による「大型ビル廃棄物管理と資源化」であった。パネルディスカッションでは、これからの廃棄物資源化の方向として、①特別に管理する事業、②資源不足が予想されるものの資源化を促進する事業、の二つの分野が重視されるとの方向性が提示され、盛会裡に終了した。

（企画委員会　大嶋茂男　記）

▲パネルディスカッションの様子

平成17年度廃棄物学会研究討論会のご案内

開 催 日：平成17年5月26日（木）、27日（金）

開催場所：川崎市産業振興会館　１階ホール　神奈川県川崎市幸区堀川町 66-20　Tel.044-548-4111
ＪＲ川崎駅西口　徒歩８分
京急川崎駅　　徒歩７分

参 加 費：資料集代を含む。
正会員、公益・賛助会員所属、協賛学会会員；3,000 円
学生会員、登録団体市民会員；1,000 円
非会員；5,000 円（当日会場にて新入会できます。）
総会のみの出席は無料。懇親会参加費（別途）は 5,000 円の予定。

参加申込方法：当日ホール前にて受付をします。
備え付けの参加申込書に記入し、該当する参加費を添えてお申込み下さい。

タイムスケジュール：詳細については学会誌第 16 巻第 2 号又は学会ホームページをご覧下さい。

開催日	時　間	内　容
5 月 26 日(木)	12:00～12:30	受付
	12:30～14:30	「３Ｒイニシアティブ後のアジアと日本」
	14:45～16:45	「循環型社会に相応しい都市ごみ処理への変革を考える －焼却・埋立の立場から－」
	17:00～18:00	平成 17 年度　廃棄物学会総会 平成 16 年度　廃棄物学会賞表彰式
	18:20～	懇親会
5 月 27 日(金)	9:30～11:30	「市民参加型循環型社会づくりを考える」
	12:30～14:30	「廃棄物等の発生抑制と排出抑制」
	14:45～16:45	「学会連携　本格的にはじまった自動車リサイクル」

平成 17 年度総会開催のお知らせ

平成 17 年度総会を下記のとおり開催いたします。会員の皆様の参加をお願い申し上げます。なお、正会員各位には、5 月上旬に総会資料をお送りいたします。**総会に参加できない正会員の方は、総会資料に綴じこんである委任状を忘れずに提出ください。**また、総会終了後、懇親会（有料）を予定しております。あわせてご参加ください。

開催日時：平成 17 年 5 月 26 日（木）17：00～
開催場所：川崎市産業振興会館　１階ホール
※総会は平成 17 年度廃棄物学会研究討論会とあわせて開催いたします。案内図は上記をご覧ください。

【お知らせ】

関西支部主催

施設見学会
～汚泥処理・リサイクル施設の見学～

開催日時：平成 17 年 4 月 15 日（金）12:30-17:30
見学場所：大阪市･舞洲（まいしま）スラッジセンター
　　伊丹市･昆陽池（こやいけ）底泥処理施設
参 加 費：1,000 円（当日、現地にて申し受けます）
定　　員：50 名（先着順）
申込方法：「見学会に参加希望」と明記の上、住所、氏名、連絡先（電話番号、E-mail など）を記入し、4 月 1 日(金)までに E-mail、FAX、ハガキで下記までお申込ください。
問合せ先：廃棄物学会関西支部「施設見学会」係
　　(担当 藤川輝昭､木川修二)
　　〒530-0051 大阪市北区太融寺町 5-15
　　梅田イーストビル 3 階
　　（財）廃棄物研究財団　大阪研究所　気付
　　TEL：06-6363-3481　FAX：06-6363-3482
　　E-mail:osaka@jwrf.or.jp

廃棄物学会共催
(社)高分子学会グリーンケミストリー研究会主催
第 18 回グリーンケミストリー研究講演会

プラスチックリサイクルと評価
－現状と将来に向けた提言－

開催日時：平成 17 年 7 月 19 日（火）10:00-17:30
開催場所：日本大学理工学部駿河台校舎
　　1 号館 122 会議室（東京都千代田区）
参 加 費：会社；13,650 円、大学・官公庁；5,250 円、学生；2,100 円
定　　員：70 名（定員になり次第締切）
申込方法:下記まで､FAX にて申込書をご請求ください。
申込先：(社)高分子学会グリーンケミストリー研究会講演会係
　　TEL：03-5540-3770　FAX：03-5540-3737

会 員 状 況	H17.2.28 現在 （　）内は、H16.4.1 以降の増減
正 会 員	3,589　（ 60）
学生会員	351　（ 80）
外国人会員（ＤＭ）	24　（　1）
登録団体市民会員	3　（　0）
公益会員	111　（ -1）
賛助会員	179　（ -5）
計	4,257　(135)

注）外国人会員(DM)は、廃棄物学会外国人等会員規程第 4 条に定める会員を示す。

廃棄物学会ニュース No.85　　平成17年3月25日発行
廃棄物学会　〒108-0014 東京都港区芝 5-1-9 豊前屋ビル 5F
Tel.03-3769-5099　Fax.03-3769-1492
http://www.jswme.gr.jp
印刷媒体は古紙配合率 100%再生紙を使用しています

＝事務局からのお願い＝

○会員の皆様には、3 月末に「平成 17 年度会費納入のお願い」を送らせて頂きます。5 月 31 日までに納入下さいますようお願いいたします。

○学生会員の方には、「会費納入のお願い」に同封して「会員資格変更届」も送付いたします。卒業された方は正会員となりますので、新しい連絡先を記入の上、FAX または郵送してください。

○転居、異動等で連絡先に変更のある方は、学会事務局まで FAX または郵便にてお知らせください。

○退会される方は、退会届を FAX または郵送してください。会員番号、名前、退会する旨の一文があれば書式は問いません。

Ｃ＆Ｇ会員特別価格のお知らせ

廃棄物学会では年 1 回、市民がつくるごみ読本「Ｃ＆Ｇ」を発行しています。会員の皆様には学会誌に同封して送付しておりますが、より多くの方に読んでいただけるように会員特別価格を設定することとなりました。詳細については、3 月末送付の廃棄物学会誌第 16 巻第 2 号､Ｃ＆Ｇ NO.9 に同封の案内をご覧下さい。たくさんのお申込をお待ちしております。

☆☆事務局だより☆☆

昨年の８月から広報委員を仰せつかりました国環研の山田です。事務局だより初見参です。よろしくお願いします。

これまで廃棄物にまつわる問題は国内問題でした。しかし、最近では、周辺国でのリサイクル、ODA や CDM による技術協力等が活発になり、国際関係の中で廃棄物問題を考える時代になりました。

国際学会や会議の場で外国の研究者や政策担当者と議論する上で一番驚くべきことかつ悔しいことは、我が国が長年苦労しながら培ってきた、例えば排出源分別や熱処理等の多様な中間処理技術、廃棄物に合わせた最終処分方法等に関する経験と技術をまったくご存じないことです。原因は明らかで日本から発信される（英文の）情報がきわめて限られていることです。

この事態は、論文を書くときに背景を一から説明しなければならないという研究者としての面倒の原因でもありますが、国際ルールの策定や途上国への技術輸出の場面において他国と競合するときに不利な状況に追い込まれる大きな原因となっています。

私自身は、廃棄物問題を欧米に学ぶ時代は終わったと思っています。廃棄物学会が我が国の廃棄物情報を世界に発信する中心的な機関となるよう、広報委員会の場でも努力していきたいと考えています。

（山田正人　記）

次号（学会ニュース No.86）は 5 月 10 日発行予定です。